

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：韓国 新羅大学

留学期間：2019年3月～2019年7月

留学前は単に「韓国が好きで、韓国語をしゃべれるようになればいいや。」的な安易な考えでいました。留学が決まり、トラベラー気分の状態で渡韓し釜山に降り立ちました。まずそこで言葉が満足に話せない私に現地的人是合わせて(助けて)くれない、という当たり前の現実に直面しました。どちらかという、消極的な私は、これからの留学生活に対する不安で胸がいっぱいになりました。

最初は、自信なく片言の韓国語と身振り手振りで自分の伝えたいことを表現していました。そこで分かったことは、失敗を恐れずに相手の懐(フィールド)に飛び込むことです。最初は思うように伝わらなくても、何度となく失敗(体験)することで言語も習慣も自然と身についてきました。もちろん、まったくのゼロからでは相手に対しても、また文化風習的にも失礼があります。そこで、本当にありがたかったのは友人です。日本から一緒に留学した友人、現地で合流した外国人留学生、日本留学を経験した韓国人学生など様々な人たちが私をバックアップしてくれました。その甲斐あってか、次第に教科書的な韓国語が日常会話的な韓国語へと変わり、現地の人へ自分の意思を伝えることが出来るようになりました。

元々消極的な私でしたが、言葉が理解できるようになると現地の人とも積極的に会話し、接することが楽しくなりました。少しずつではありますが、消極的な私から積極的な私へとチャンネルが変わりだすことが出来ました。日本人は「付度する」、「察する」ことで人付き合いを行いがちですが、海外では「はっきり言う」、「自己表現する」が当たり前のよう感じました。声に出す(言葉にする)ことほどわかりやすいことはありませんが、簡単に取り消すことが出来ない分、慎重になる必要があることも学ぶことが出来ました。

留学ですから語学が堪能になるのは当然ですが、単に日常会話であれば「駅前留学」でことは足りるはずはです。私が留学を通じて学んだことは、友人の有難さと大切さです。当初、言葉が満足に通じない韓国で学習や生活の不安を抱えていた時、声をかけられ、励ましてもらえた時のうれしさ、暖かさは本当に心強く、そしてありがたかったです。今はSNSを通じて画面だけの付き合いもあるかと思いますが、身近で生の言葉のやり取りができ、しかも、外国人との付き合いが出来る留学はぜひ体験してもらいたいです。私がもう一度留学の機会を与えてもらえるのであれば、迷うことなく留学をさせてもらいます。そして、その時には、私も声をかける側になりたいです。

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：韓国 新羅大学

留学期間：2019年3月～2019年7月

私は、半年の留学、正確に言えば5ヶ月ちょっとの留学を通して語学力は確実に伸びたと感じています。私の留学した釜山にある新羅大学は、留学生数が400人ととても多く留学生は語学堂を中心に通います。クラスのレベルは、試験によって分けられるのですが運が良かったのか、一番上のクラスで学ぶことになったのです。嬉しさとワクワクした気持ちで行った最初の授業でしたが、始まった途端ワクワクしていた気持ちは消えました。留学へ行った時の私のレベルは、全く高くもなく、ハングル検定3級(学校で韓国語を学べば取れるレベル)、TOPIK3級をギリギリで取得したぐらいでした。TOPIKという試験は全世界共通の試験で、私が学んでいくことになったクラスは5・6級(一番上が6級)を既に獲得している人、留学が2年目になる人、先生になりたい人がほとんどでした。

授業は、もちろんですが韓国語なので私の単語量、文法量では理解するのが難しく正直何を言っているのか分からないことが多々ありました。そして、私だけが常に頭にハテナを浮かべ、先生も一番できない私に分かるか確認しながら進めていくという感じでした。こんな状況に、もっと上のレベルを目指しているだろう周りの子に申し訳なさ、自分のできなさに悔しかったです。当たり前のことですが、できないならできないなりに人の倍以上やらないとなと思い、宿題や予習も人の3倍してなんとか追いつく程度でした。こんな感じで始まった留学ですが、1ヶ月半くらいした頃から少しずつ授業で先生が話していることをだいたい理解できるようになり、クラスに多かった中国人の子たちとも会話しながら楽しめるようになりました。韓国語で話すことに少しずつ慣れてきた頃、中間試験があったのですが、4技能の一つであるスピーキングテストでまたもや自信を失ってしまいました。スピーキングテストは、社会的問題や政治的問題など3つのテーマについてそれぞれ5分ずつくらい話すのですが、緊張のあまり、頭が真っ白になり、完璧に覚えていった文章を一つも思い出せなくなり簡単な会話でさえ口から出ませんでした。この出来事後から、韓国語で話すということに対して怖くなってしまい、何を考えてもマイナスに考えてしまう時期があったのですが、これではダメだと思い、あえて韓国語を話すという恐怖に突っ込もうと決めました。例えば、ご飯屋や美容院、タクシーなどを予約するときに電話でしたり、なるべく毎日外出して韓国語で話すという状況を多く作ったりしまひた。そのおかげで、期末試験でのスピーキングテストでは最善を尽くし、授業も困ることなくついていけるようになり、韓国語が今まで以上に好きになりました。

そして、私が留学を通して韓国語を頑張れたのは、私が辛くて相談していたときに親身になって聞いてくださった語学堂の先生、クラス、友達のおかげだと思っています。韓国人は情が厚くて熱心というイメージがありましたが、言葉通りでした。先生は言語を教えていただくだけでなく、夢や将来についても真剣に相談してくれて更に頑張ろうと思わせてくれる最高の先生でした。私だけでは絶対に何度も折れていたと思います。私が辛いときに、いつも支えてくれて、励ましてくれたことに本当に感謝して

います。留学は、語学面上達もそうですが、改めて人の優しさ、周りの存在、そして、これからの将来について考えるいい時間だったと感じました。